



朝日工業社

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

2025年11月28日

東証プライム（証券コード：1975）



当社ウェブサイト



当社決算説明会書き起こし
(ログミーfinance)

1

2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

P.3

2

2026年3月期 業績予想

P.13

3

資本政策・株主還元

P.17

4

第18次中期経営計画の進捗状況

P.21

Appendix

P.29



朝日工業社

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

- 受注高は、首都圏の大型再開発やデータセンター関連工事の獲得により、大幅に増加。
- 売上高は、前期からの手持工事である生産環境施設の順調な進捗・竣工により、堅調に推移。
- 売上総利益以下の各段階利益は、受注時採算の改善に加え、生産環境施設などの高付加価値工事の進捗・竣工、さらに、生産性向上やコスト管理の徹底により、大幅に増加。

(単位：百万円)	'24/3期	'25/3期	'26/3期		
	2Q累計	2Q累計	2Q累計	前年同期比	増減率 (%)
受注高	64,126	37,189	56,367	19,177	51.6
次期繰越高	104,510	84,976	104,366	19,390	22.8
売上高	41,997	40,502	41,441	939	2.3
売上総利益	5,405	6,219	8,138	1,919	30.9
利益率	12.9%	15.4%	19.6%	4.2pt	-
販売費及び一般管理費	3,194	3,421	4,046	625	18.3
営業利益	2,211	2,797	4,091	1,294	46.3
利益率	5.3%	6.9%	9.9%	3.0pt	-
営業外損益	184	211	185	△26	△12.5
経常利益	2,395	3,009	4,276	1,267	42.1
利益率	5.7%	7.4%	10.3%	2.9pt	-
特別損益	7	484	486	1	0.3
親会社株主に帰属する当期純利益	1,615	2,362	3,211	849	35.9
利益率	3.8%	5.8%	7.7%	1.9pt	-

セグメント別受注高・売上高・営業利益

- 設備工事事業については、受注高が大幅に増加し、売上高も堅調に推移。
営業利益は売上総利益率の改善により大幅に増加。
- 機器製造販売事業については、受注高、売上高ともに減少しているものの、着実に回復。
営業体制を見直し、新規顧客開拓に注力するとともに、環境配慮型製品の開発を進め、収益力強化に努める。

(単位：百万円)	'24/3期	'25/3期	'26/3期		
	2Q累計	2Q累計	2Q累計	前年同期比	増減率 (%)
設備工事事業					
受注高	63,065	32,613	54,463	21,850	67.0
売上高	40,605	37,788	38,881	1,092	2.9
営業利益	2,474	2,959	4,159	1,200	40.6
営業利益率	6.1%	7.8%	10.7%	2.9pt	-
機器製造販売事業					
受注高	1,061	4,576	1,903	△2,672	△58.4
売上高	1,391	2,714	2,560	△153	△5.7
営業利益	△262	△161	△68	93	-
営業利益率	△18.9%	△6.0%	△2.7%	-	-
受注高合計	64,126	37,189	56,367	19,177	51.6
売上高合計	41,997	40,502	41,441	939	2.3
営業利益合計	2,211	2,797	4,091	1,294	46.3

四半期業績の推移①

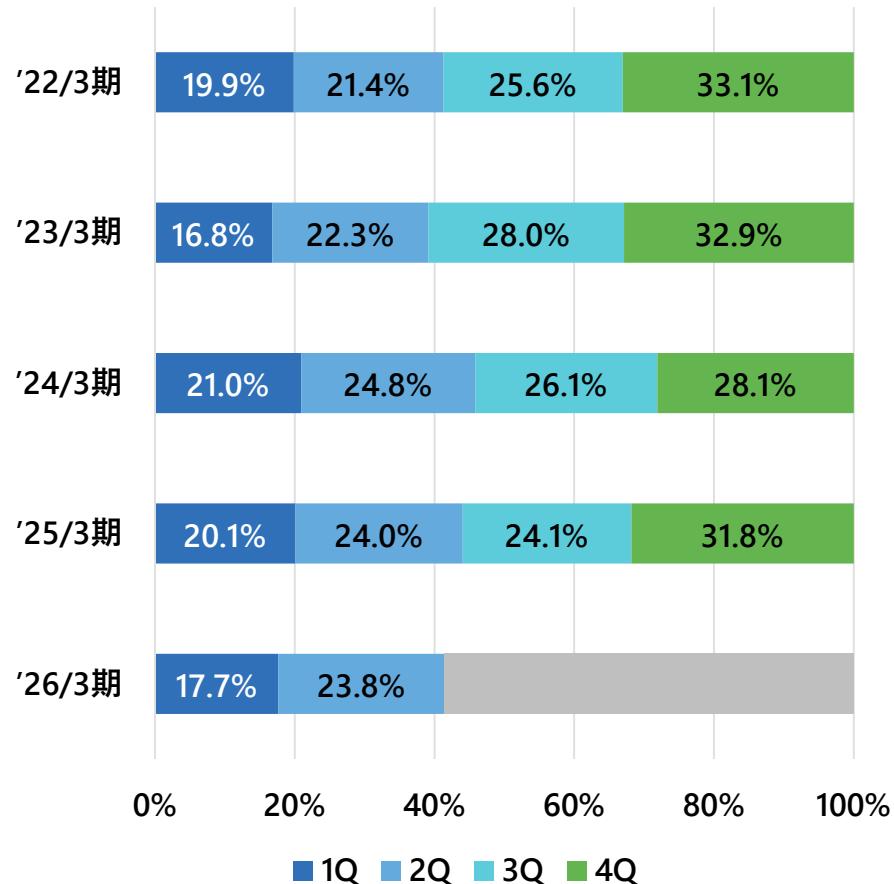
- | 受注高、売上高は、通期目標1,000億円の達成に向けて順調に推移。
- | 各段階利益は、引き続き堅調に推移。
- | 販売費及び一般管理費は、ベースアップを含む賃上げや人員増により人件費が増加。

(単位：百万円)	'25/3期				'26/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	2Q累計
受注高	21,087	16,101	27,813	28,095	31,261	25,105	56,367
売上高	18,471	22,031	22,174	29,271	17,677	23,764	41,441
売上総利益	2,554	3,664	3,226	5,911	3,914	4,223	8,138
利益率	13.8%	16.6%	14.6%	20.3%	22.1%	17.8%	19.6%
販売費及び一般管理費	1,663	1,758	1,975	2,711	2,026	2,020	4,046
営業利益	890	1,906	1,251	3,199	1,887	2,203	4,091
利益率	4.8%	8.7%	5.6%	10.9%	10.7%	9.3%	9.9%
営業外損益	178	32	168	△45	181	3	185
経常利益	1,069	1,939	1,419	3,153	2,069	2,207	4,276
利益率	5.8%	8.8%	6.4%	10.8%	11.7%	9.3%	10.3%
特別損益	△2	487	0	558	△11	497	486
親会社株主に帰属する四半期純利益	708	1,654	962	2,904	1,390	1,821	3,211
利益率	3.8%	7.5%	4.3%	9.9%	7.9%	7.7%	7.7%

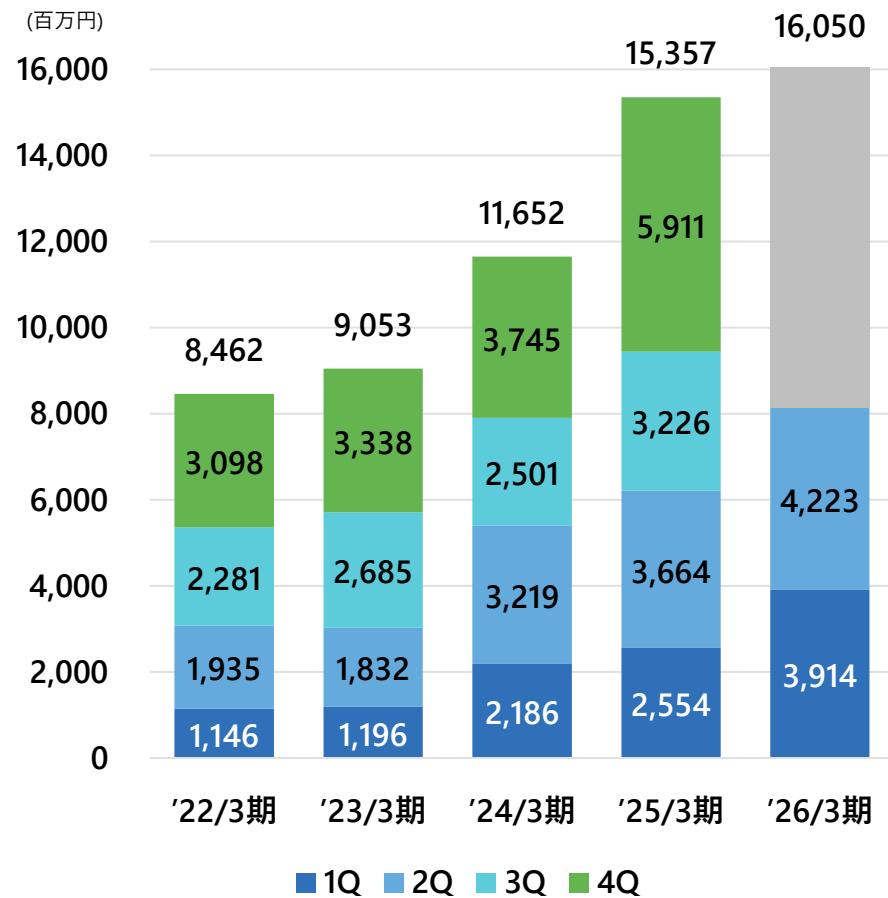
四半期業績の推移②

- 売上高は、3月末竣工の工事の割合が多く、竣工間近に大きく進捗するため、第1四半期から第4四半期にかけて右肩上がりで推移する傾向があるが、大型工事の進捗状況等により変動する可能性あり。
- 売上総利益は、通常、第4四半期に大きく伸びる傾向があるが、今期は、採算性の高い大型工事が上半年に大きく進捗・完成したため、第1四半期から高水準に推移。

四半期毎の売上進捗率



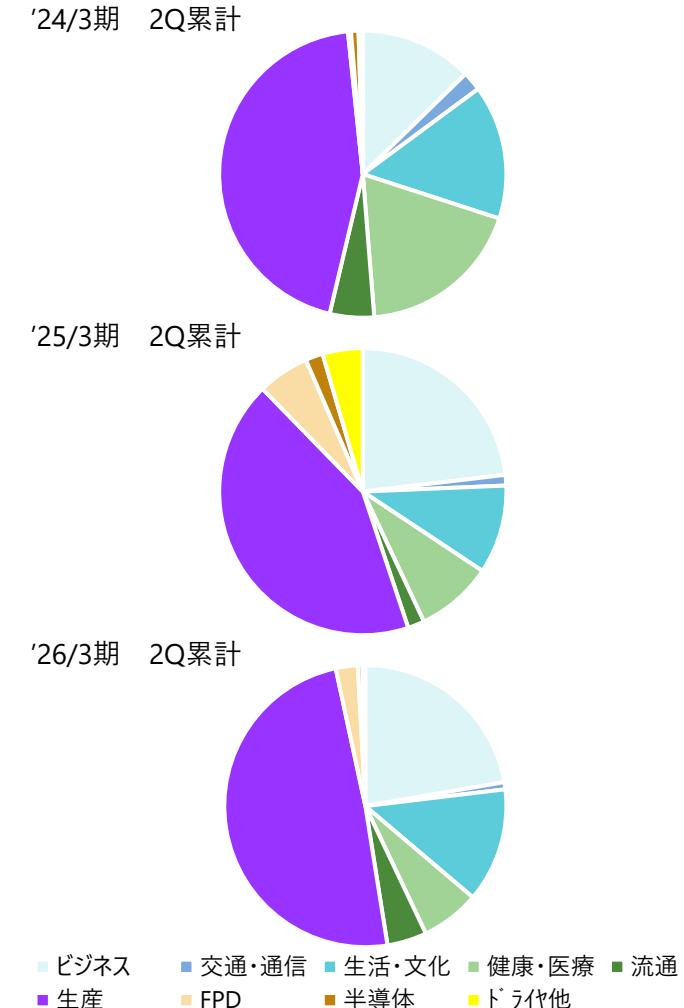
四半期毎の売上総利益 推移



セグメント別実績 受注高

- | 全体の受注高は、前年同期比大幅増加。
- | 設備工事事業は、流通環境施設の大幅増加をはじめとして、全体的に増加。
- | 機器製造販売事業は、全体的に減少。体制の見直しを図り、収益力の強化に努める。

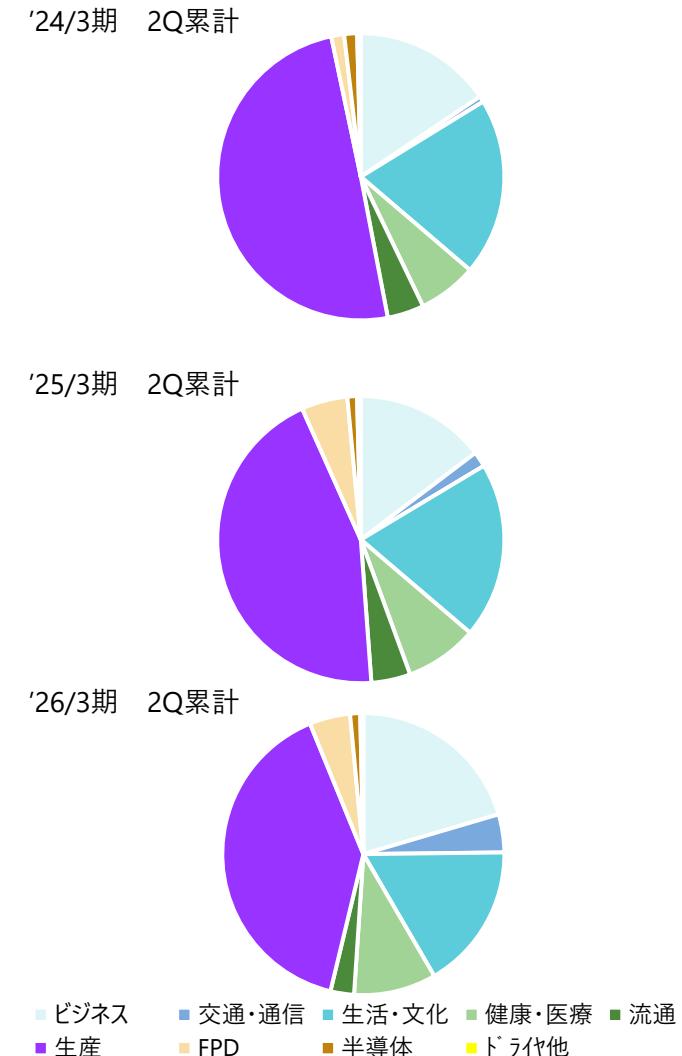
(単位：百万円)		受注高				
		'24/3期 2Q累計	'25/3期 2Q累計	'26/3期 2Q累計	前年 同期比	増減率 (%)
設備工事	ビジネス環境施設 (事務所・官公庁舎 等)	8,147	8,604	12,558	3,954	46.0
	交通・通信環境施設 (駅舎・空港施設 等)	1,389	442	460	18	4.1
	生活・文化環境施設 (学校・宿泊施設 等)	9,706	3,717	7,386	3,669	98.7
	健康・医療環境施設 (病院・介護施設 等)	12,004	3,229	3,803	574	17.8
	流通環境施設 (倉庫・商業施設 等)	3,203	697	2,559	1,862	267.1
	生産環境施設 (工場・研究所・データセンター 等)	28,616	15,924	27,697	11,773	73.9
機器製造販売	FPD（液晶）関連	215	2,162	1,418	△744	△34.4
	半導体関連	541	732	297	△435	△59.4
	ドライヤ関連他	305	1,682	188	△1,494	△88.8
合計		64,126	37,189	56,367	19,177	51.6



セグメント別実績 売上高

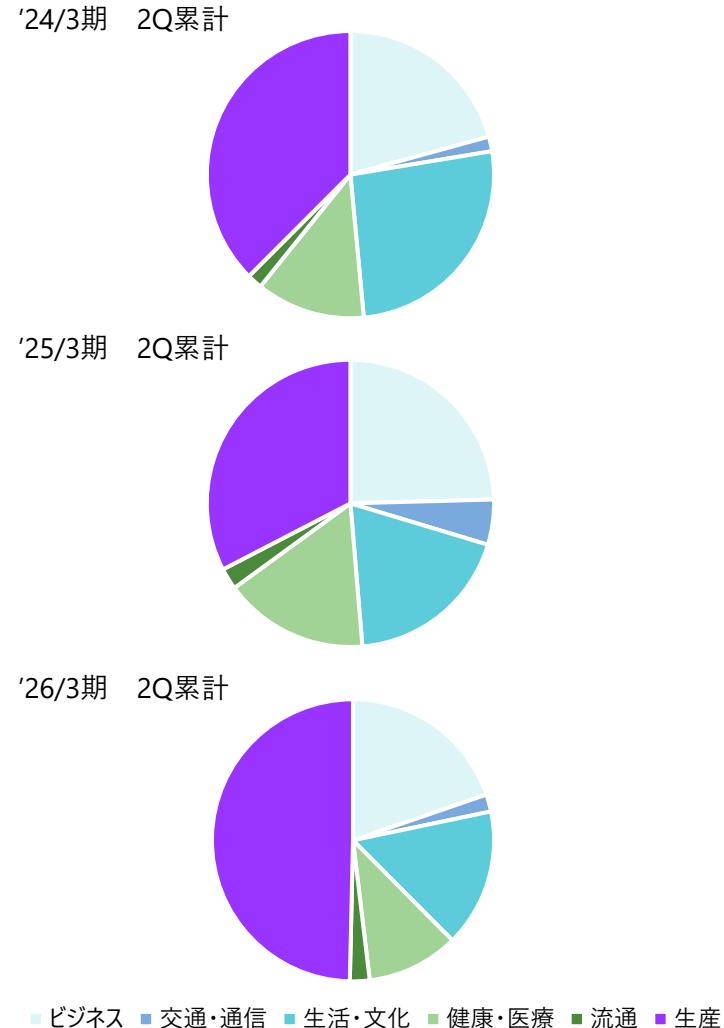
- 全体の売上高は、前年同期比増。
- 設備工事事業は、生産環境施設、生活・文化環境施設、流通環境施設は減少したものの、ビジネス環境施設、交通・通信環境施設、健康・医療環境施設が増加。
- 機器製造販売事業は、FPD関連は減少したものの、半導体関連は増加。

(単位：百万円)		売上高				
		'24/3期 2Q累計	'25/3期 2Q累計	'26/3期 2Q累計	前年 同期比	増減率 (%)
設備工事	ビジネス環境施設 (事務所・官公庁舎 等)	6,539	5,948	8,473	2,525	42.5
	交通・通信環境施設 (駅舎・空港施設 等)	277	695	1,809	1,114	160.3
	生活・文化環境施設 (学校・宿泊施設 等)	8,408	8,031	6,962	△1,069	△13.3
	健康・医療環境施設 (病院・介護施設 等)	2,777	3,315	3,914	599	18.1
	流通環境施設 (倉庫・商業施設 等)	1,730	1,785	1,119	△666	△37.3
	生産環境施設 (工場・研究所・データセンター 等)	20,874	18,014	16,604	△1,410	△7.8
機器製造販売	FPD（液晶）関連	607	2,104	1,933	△171	△8.1
	半導体関連	612	441	481	40	9.1
	ドライヤ関連他	170	169	146	△23	△13.5
合計		41,997	40,502	41,441	939	2.3



- 全体の次期繰越高は、前年同期比大幅増加。
- 大型データセンター等の受注により、生産環境施設が大幅に増加。

(単位：百万円)	次期繰越高				
	'24/3期 2Q累計	'25/3期 2Q累計	'26/3期 2Q累計	前年 同期比	増減率 (%)
ビジネス環境施設 (オフィスビル、官公庁舎等)	20,791	19,061	19,344	283	1.5
交通・通信環境施設 (空港、駅、テレビ局等)	1,657	3,940	1,921	△2,019	△51.2
生活・文化環境施設 (学校、ホテル等)	26,199	14,751	15,501	750	5.1
健康・医療環境施設 (病院、介護施設等)	12,310	12,650	10,338	△2,312	△18.3
流通環境施設 (デパート、市場等)	1,715	1,874	2,213	339	18.1
生産環境施設 (工場・研究所、データセンター等)	37,606	25,293	48,614	23,321	92.2
合計	100,278	77,569	97,931	20,362	26.3



- 総資産額は、固定資産が増加し、完成工事未収入金は減少。
- 負債総額は、支払手形・工事未払金等が減少、長期借入金が増加。
- 純資産は、投資有価証券評価差額金、利益剰余金等の増加。

(単位：百万円)	'25/3期 2Q	'25/3期 4Q	'26/3期 2Q	前年度末比	増減率(%)
流動資産	47,160	60,288	57,715	△2,572	△4.3
固定資産	19,066	20,573	23,262	2,688	13.1
流動負債	25,412	36,786	32,121	△4,665	△12.7
固定負債	1,645	2,047	5,100	3,052	149.1
負債総額	27,057	38,834	37,221	△1,612	△4.2
純資産額	39,170	42,027	43,756	1,728	4.1
総資産額	66,227	80,861	80,977	115	0.1
1株当たり純資産額（円）	1,520.83	1,631.80	1,697.76	65.96	4.0
自己資本比率（%）	59.1	52.0	54.0	2.0pt	-
有利子負債	2,230	3,595	5,640	2,045	56.9

- 営業活動によるキャッシュフローは、税金等調整前中間純利益の計上による増加などにより、50億3,800万円のプラス。
- 投資活動によるキャッシュフローは、固定資産の取得による支出などにより、9億7,400万円のマイナス。
- 財務活動によるキャッシュフローは、配当金の支払などにより、4億8,800万円のマイナス。
- 現金及び現金同等物の残高は、219億7,500万円となり、前年同期から56億7,200万円のプラス。

(単位：百万円)	'24/3期 2Q	'25/3期 2Q	'26/3期 2Q	前年 同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,644	△401	5,038	5,439
投資活動によるキャッシュ・フロー	△175	802	△974	△1,776
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,696	△2,141	△488	1,653
現金及び現金同等物の中間期末残高	17,341	16,302	21,975	5,672



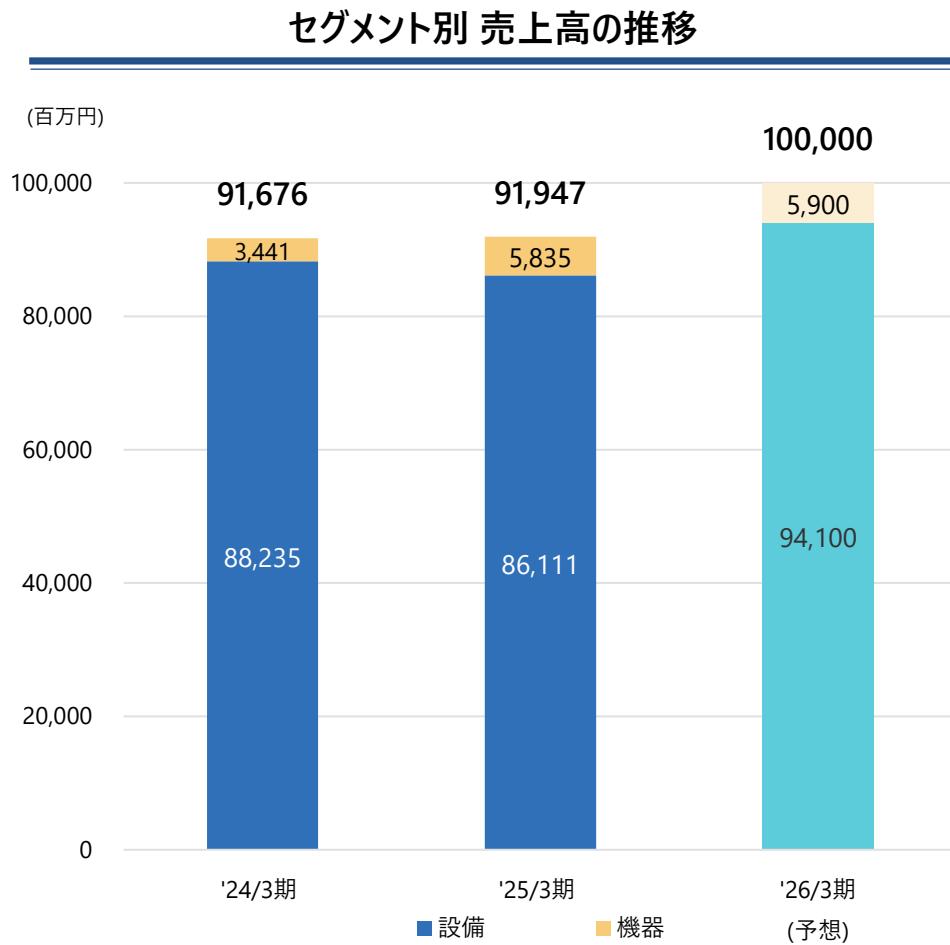
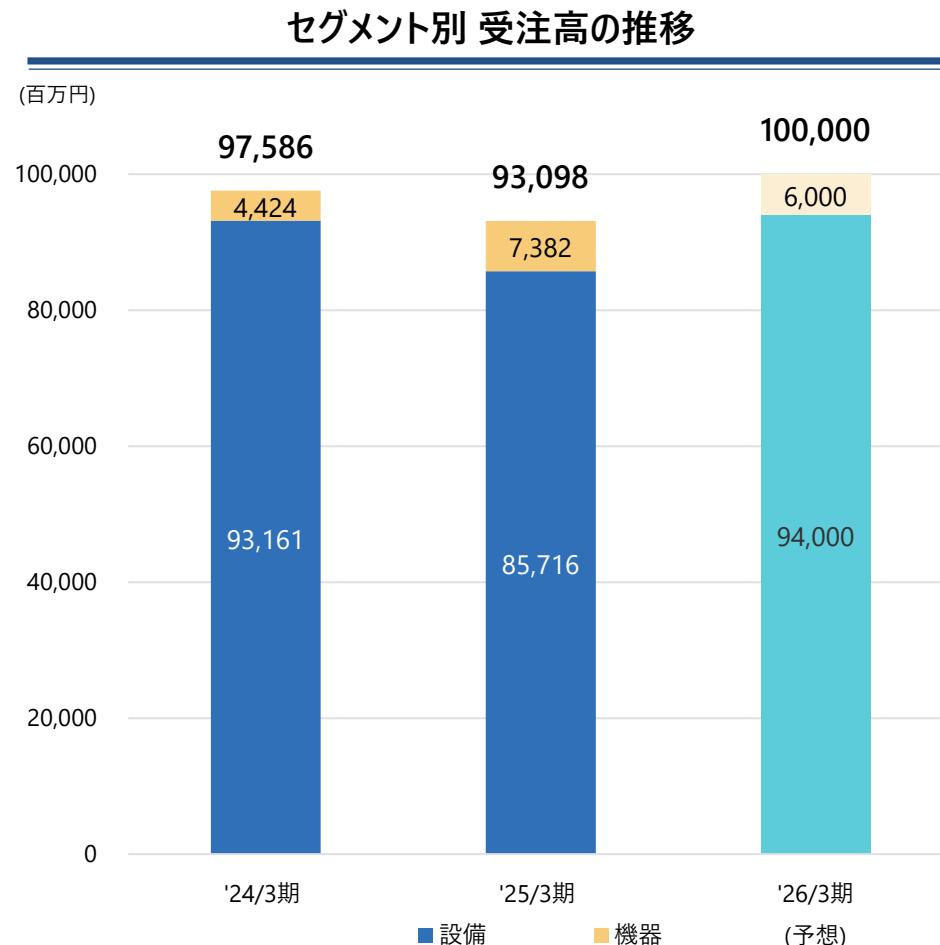
朝日工業社

2. 2026年3月期 業績予想

- | 受注高・売上高は、1,000億円の達成に向け順調に進捗。
- | 各段階利益は、過去最高となった2025年3月期を上回ることを目指す。

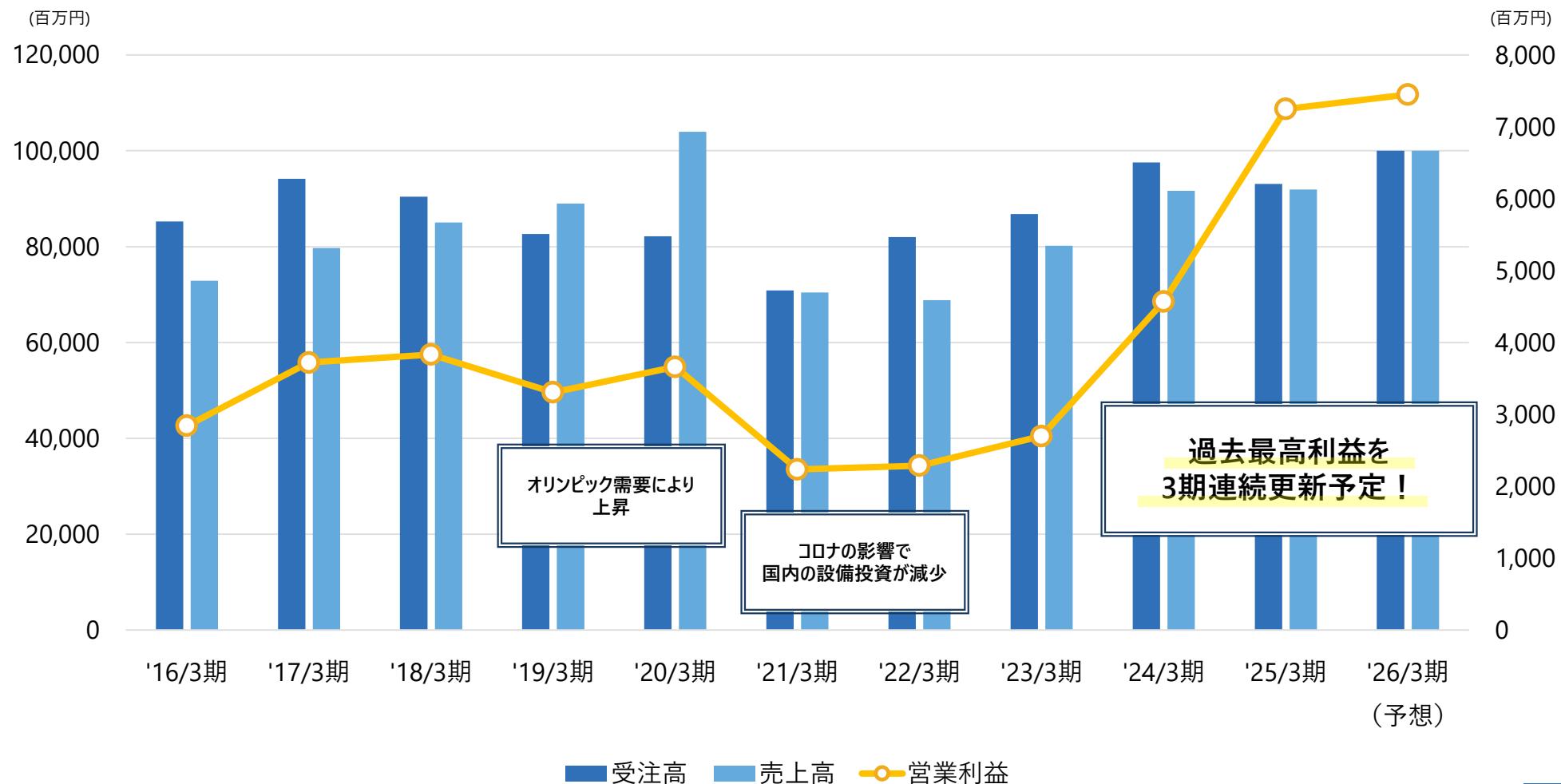
(単位：百万円)	'24/3期	'25/3期	'26/3期		
	実績	実績	予想	前年比	増減率 (%)
受注高	97,586	93,098	100,000	6,902	7.4
次期繰越高	88,290	89,441	89,441	-	-
売上高	91,676	91,947	100,000	8,053	8.8
売上総利益	11,652	15,357	16,050	693	4.5
利益率	12.7%	16.7%	16.1%	△0.6pt	-
営業利益	4,568	7,248	7,450	202	2.8
利益率	5.0%	7.9%	7.5%	△0.4pt	-
経常利益	4,896	7,582	7,650	68	0.9
利益率	5.3%	8.2%	7.7%	△0.5pt	-
親会社株主に帰属する当期純利益	3,712	6,229	6,400	171	2.7
利益率	4.0%	6.8%	6.4%	△0.4pt	-

- 設備工事事業は、堅調な設備投資で、受注高・売上高ともに大幅増加を見込む。
- 機器製造販売事業の受注高は、2025年3月期の大型受注の反動で2026年3月期は減少するものの、売上高は2025年3月期の水準を維持。



外部環境の変動はあるものの、右肩上がりに成長。3期連続で過去最高益を更新予定。

受注高・売上高・営業利益 推移



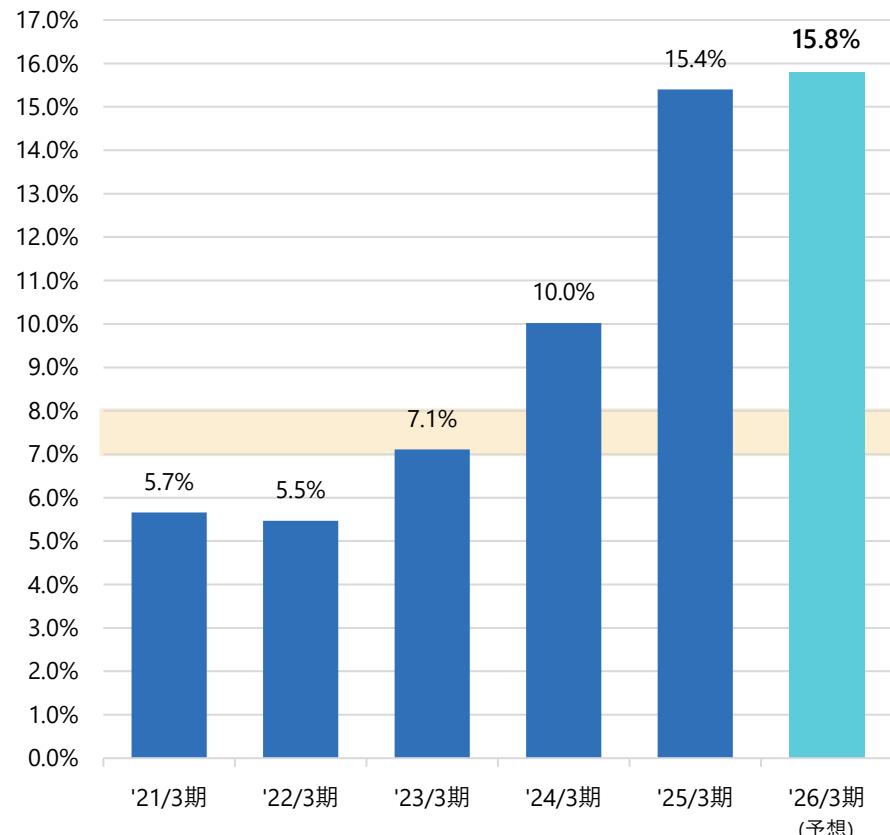


朝日工業社

3. 資本政策・株主還元

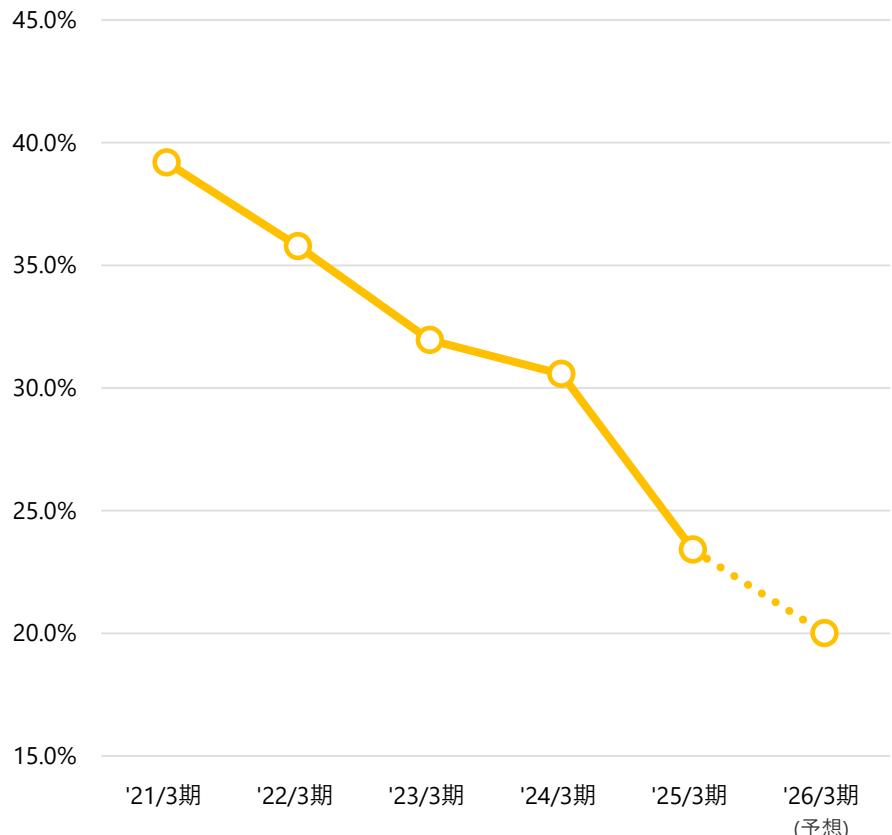
- 2025年3月期のROEは15%超となり、当社が認識している株主資本コストを大きく上回る。
- 政策保有株式は、中期経営計画期間中に、純資産比20%以下へ縮減を目指す。

ROEの推移



注釈(1)：ベージュ網掛け部分は、当社が認識している株主資本コスト（7%～8%）です。

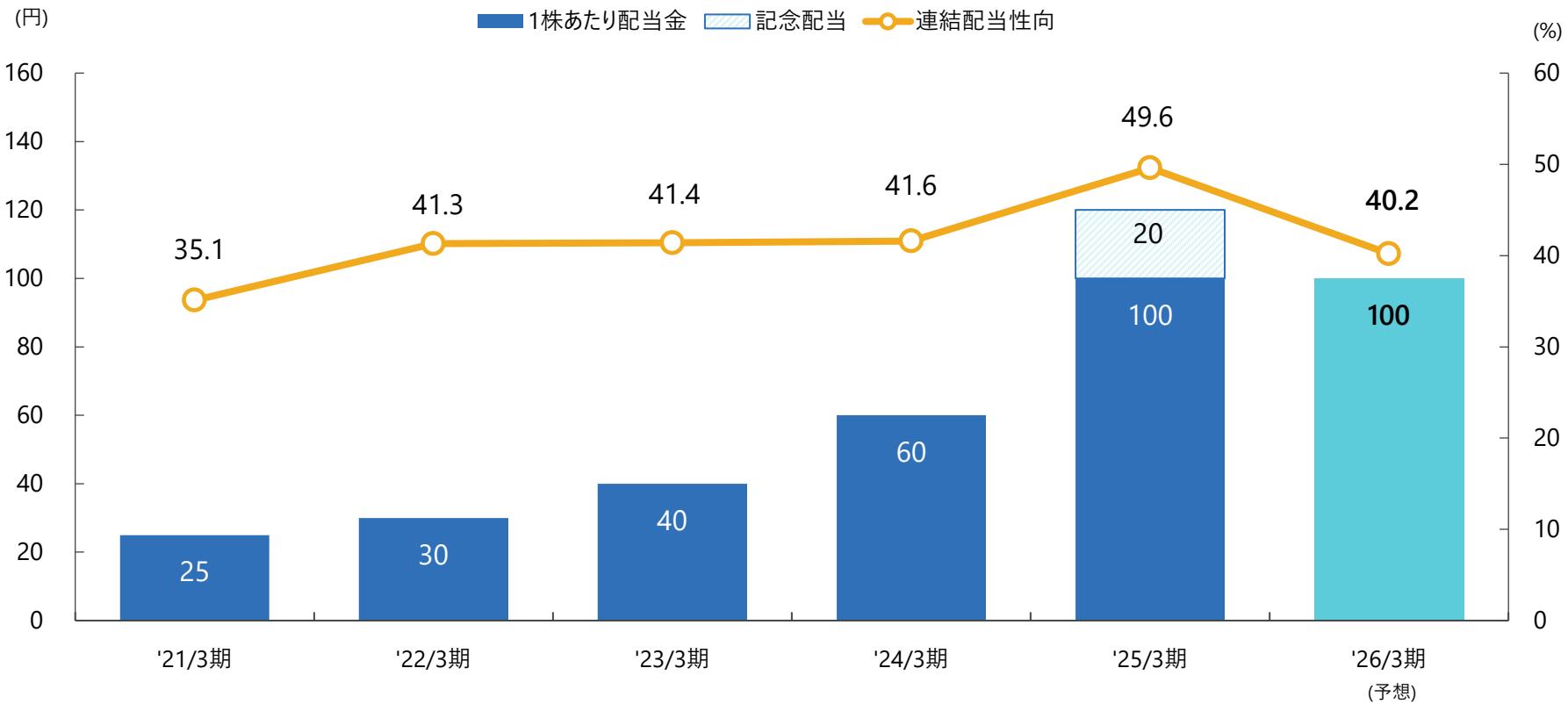
政策保有株式の縮減状況



注釈(2)：投資有価証券を純資産で除した割合を示しています。

- 連結配当性向40%以上を目標とし、
2025年3月期は、100周年記念配当を含む、年間配当120円（連結配当性向49.6%）を実施。
- 2026年3月期も、2025年3月期の配当（100周年記念配当分を除く。）を維持。

配当金及び配当性向の推移



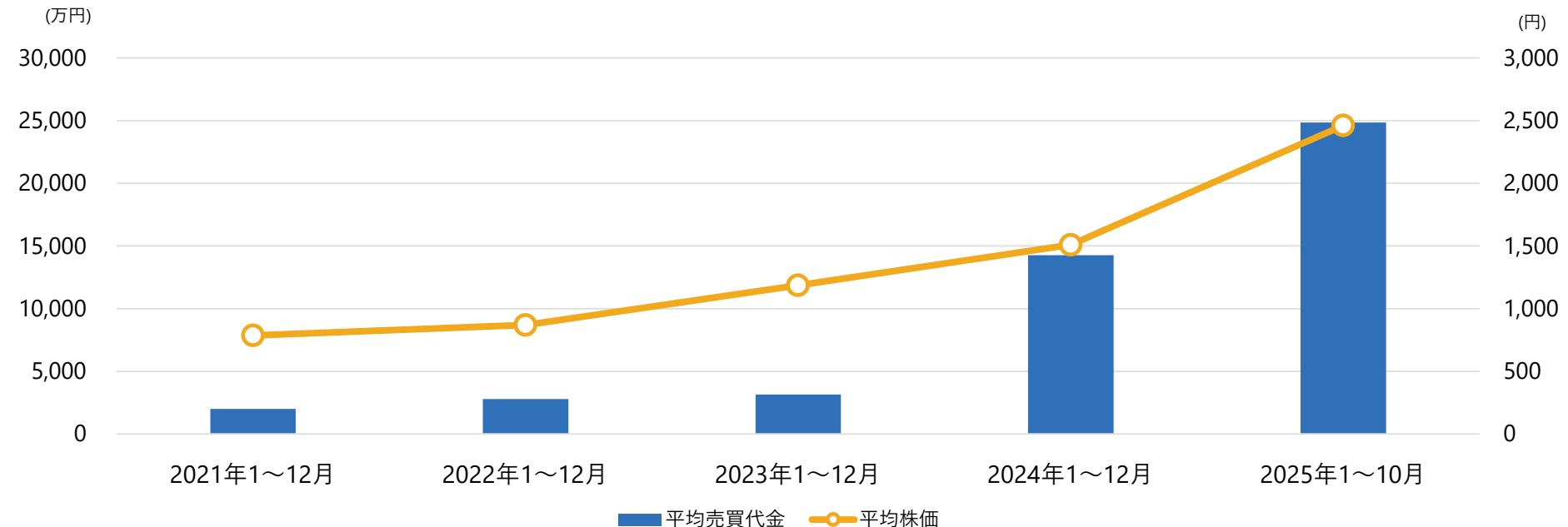
注釈(1)：2022年4月1日付及び2024年4月1日付の2度、それぞれ1株につき2株の割合で株式分割を行っているため、各期の配当金は当該株式分割を反映した金額にしております。

- 堅調な業績と継続的なIR施策で株価が大幅に上昇。
- さらに、2022年および2024年の株式分割により流動性も向上。

株価及び売買代金の推移

	2021/1~12	2022/1~12	2023/1~12	2024/1~12	2025/1~10
平均株価 (終値)	786円	869円	1,186円	1,509円	2,461円
1日平均 売買代金	2,006万円	2,784万円	3,147万円	14,259万円	27,849万円

注釈(1)：2022年4月1日付及び2024年4月1日付の2度、それぞれ1株につき2株の割合で株式分割を行っているため、各期間の株価は当該株式分割を反映した金額にしております。





朝日工業社

4.第18次中期経営計画の進捗状況（2023年4月～2026年3月）

全ての項目で達成見込み

第18次中期経営計画期間（2023年4月～2026年3月）

第19次中計

(単位：百万円)	中計目標	'24/3期 実績	'25/3期 実績	'26/3期 業績予想	'27/3期～
連結受注高	87,500	97,586	93,098	100,000	
連結売上高	91,500	91,676	91,947	100,000	
連結営業利益	3,250	4,568	7,248	7,450	
連結当期純利益	2,650	3,712	6,229	6,400	
連結自己資本利益率 (ROE)	8.0%	10.0%	15.4%	15.8%	
連結配当性向	40.0%	41.6%	49.6%	40.2%	2026年5月 公表予定

目標を上回る進捗

ROE	目標	8.0%
	実績	2025年3月期 15.4 % (実績) 2026年3月期 15.8 % (通期予想)
株主還元	目標	1株当たり配当金 年間80円 連結配当性向 40%以上
	実績	2025年3月期 年間100円 + 20円 (100周年記念配当) 2026年3月期 年間100円 (予定) 2025年3月期 連結配当性向 41.3% + 8.2% (100周年記念配当) 2026年3月期 連結配当性向 40.2% (予想)
政策保有株式	目標	純資産比20%以下まで縮減
	実績	2025年3月末時点で純資産比23.4%まで縮減 最終年度である2026年3月期も目標達成に向けた縮減を加速
戦略的投資	目標	投資計画総額 約70億円
	実績	研究開発の強化、DXの推進、サステナビリティ経営や人的資本経営の推進に 合計約95.8億円 の投資を実行済み

提案型営業、現場DXの活用等により収益力・生産性を向上

高付加価値提案型営業の強化

- 特に生産環境施設向けに、付加価値の高い提案型営業を強化。
- オーダーメイド設計・施工により、効率的で高品質な生産環境を実現し、お客様のビジネス成功に貢献するとともに、当社の受注金額も上昇。

社員教育を通じた生産性向上

- 約1年9ヶ月にわたる技術系新入社員研修や、中堅社員研修を実施。
- OJTを通じて、若手社員を早期に即戦力化し、生産性向上に取り組む。

建設現場での取り組み

- タブレット型端末、自動墨出し機、3Dスキャナ等のDXツールの活用。
- 従来現場で行っていた配管や機器の組立作業を、あらかじめオフサイト拠点でユニット化してから現場に搬入する方式を採用。
- 現場での工数を約17%削減^{※1}し、現場作業の平準化・短工期化を実現。
- 良好な環境での作業により、安全性・施工品質の向上も期待される。



タブレット型端末による施工管理



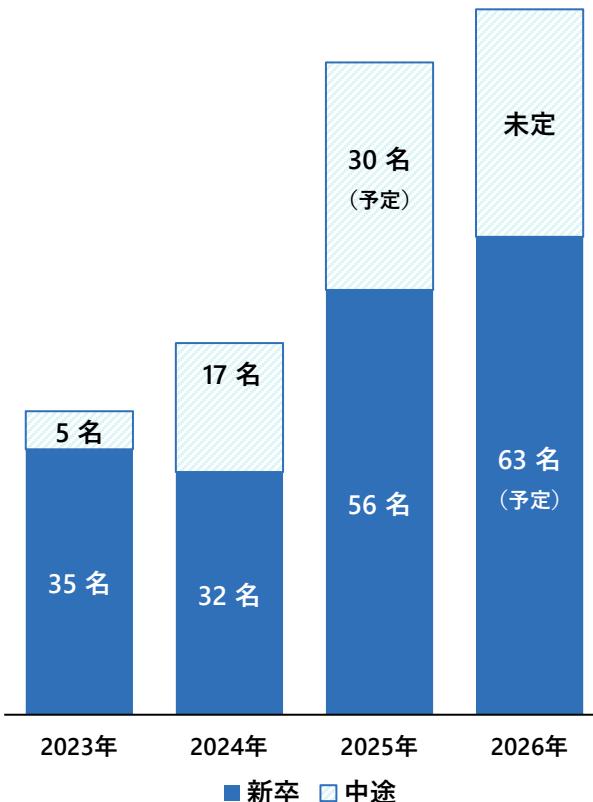
オフサイト拠点での組み立て作業

注釈(1)：モデル現場での当社試算の削減率を記載しております。

人的資本投資を加速し成長を最大化

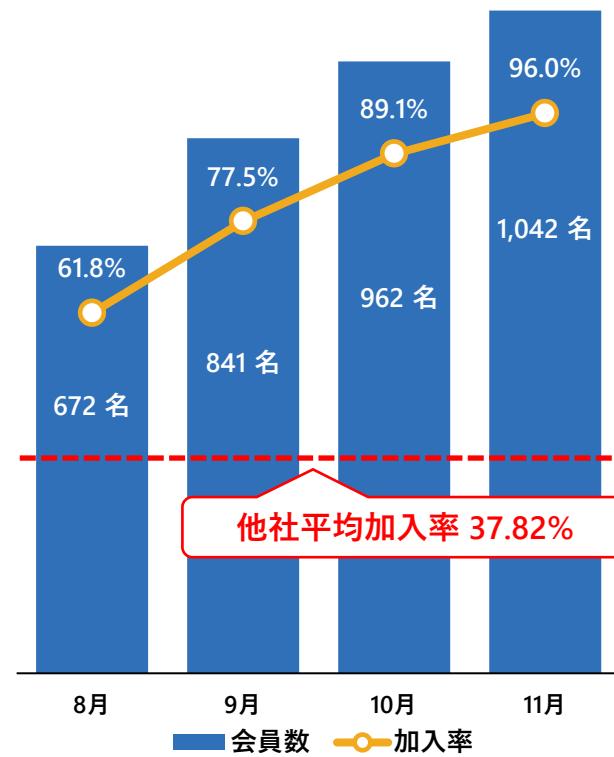
採用活動の強化

- 3年連続で採用人数増加。
- 2025年は目標達成率150%を予定。



持株会制度の拡充

- 従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度を導入。
- 持株会加入率 96%を達成。



エンゲージメントの向上

- 2023年度より3年連続で、全従業員に平均約5%の賃上げ。
- 2年連続で新卒初任給を増額。

(大学卒：25万円→28万円→29万円)
- 2025年2月より、成果重視の新評価制度を導入。
- 産後パパ育休制度の利用促進。
- 若手社員交流会・勉強会の実施。



若手社員交流会・勉強会

出所：株式会社東京証券取引所「2023年度従業員持株会状況調査結果の概要について」

研究開発の基盤強化と推進

つくば技術研究所への投資

総投資額	: 約 63 億円
竣工日	: 2025年9月22日 (12月5日開所予定)
VISION	: 探求心・知的好奇心を醸成し 次世代の環境と新事業の創出に挑戦する
環境性能	: BELS ★6  ZEB 取得  エネルギー106%削減 LEED / CASBEE-WO 申請中
主な研究領域	:

環境制御技術



省エネ技術



アグリ技術



デジタル技術



つくば技術研究所



自然光を取り込む採光天井

成長基盤を支えるサステナビリティとDXへの取り組み

サステナビリティ経営

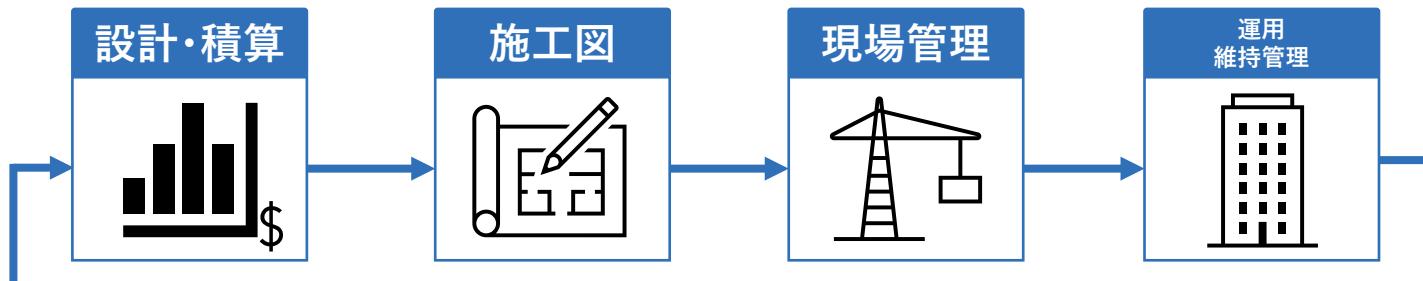
- 2050年度までに、温室効果ガス排出量を2019年度比でネットゼロとする目標が、SBTiの認証を取得。
- 機器事業部豊富工場への太陽光パネル設置など
自社事業活動におけるCO2排出量削減も推進。



機器事業部豊富工場 太陽光発電設備

BIMを核とした建設プロセスのDX

- BIMを活用したDXソリューション「ASAHIワークフロー」により、設計～施工～運用・維持管理までの建設プロセス全体をデジタルで一元管理。
- 設計変更などが自動的に調達・施工へ反映される仕組みを目指す。
- つくば技術研究所の建設現場をモデルに有効性を検証し、全社展開を推進中。



BIM対応の施工管理ソフト
進捗管理画面

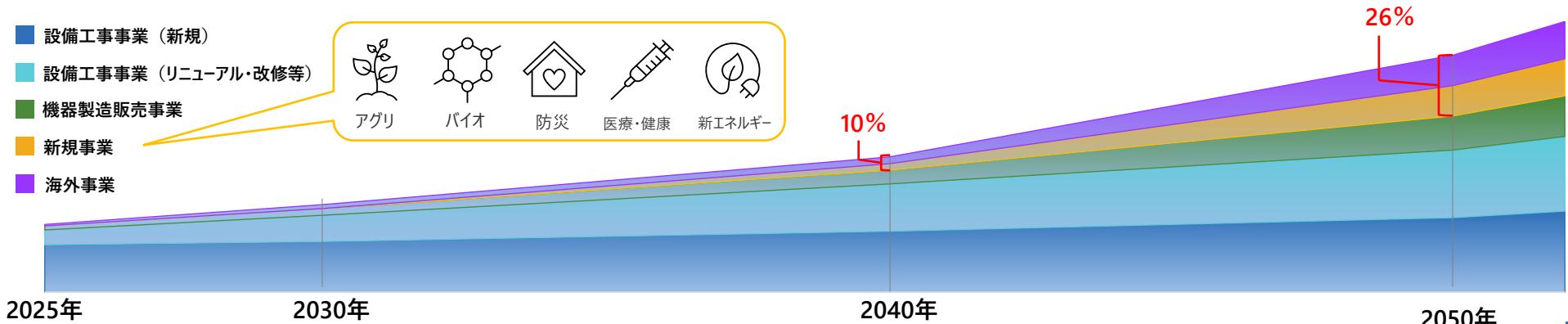
ASAHI-VISION 2050に向けた成長の加速

第18次中期経営計画の総括

- 計数目標は、全項目を達成見込み。
- 残りの中計期間も、資本効率改善と株主還元を積極的に推進し、戦略的投資と基盤強化を継続。

ASAHI-VISION 2050への展望

- スローガン『ワクワクする未来をカタチに』のもと、2050年の理想の姿を目指し挑戦を続ける。
- 売上の大幅拡大と、成長を支える従業員数の拡充・育成を強化。
- 売上高に占める新規事業および海外事業の割合を26%に拡大し、ポートフォリオ変革を推進。





朝日工業社

Appendix

エンジニアリング機能×メーカー機能を併せ持つ 業界内でも稀有な存在

機器製造販売事業

半導体やFPD (フラットパネルディスプレイ)
製造装置メーカー向けの精密環境制御機器や
ドライヤ装置などを自社で開発設計・製造・販売



5,835 百万円

6.3 %

2025年3月期
連結売上高

91,947 百万円



設備工事事業

86,111 百万円
93.7%

民間・官公庁の様々な施設における
空気調和・給排水衛生設備などの企画・設計・施工

- 設備工事事業では、「空気・水・熱」の技術を活用した「空気調和設備工事」や「衛生設備工事」を行い、企画・提案から施工、保守メンテナンス・リニューアル工事まで顧客の環境施設に対するエンジニアリングをワンストップで対応。
- 直近の実績として、高い技術が要求される半導体工場、研究施設、製薬工場、食品工場、車載用電池工場を中心とした生産環境施設が売上高の約46%を占める。

事業内容

空気調和 / 衛生 設備工事



空気調和・換気設備

空間の創造の基本は、最適な空気環境を整えることです。温度・湿度に加え、空気の流れや汚れを制御することによって、健康を維持し快適な作業空間を構築します。また、空調機器によって異なる製造・保管環境を高精度に制御します。



工場配管・乾燥・除塵設備

製造現場においては、人に対する仕様とは大きく異なる建築設備が必要となります。例えば、一切の不純物を含まない純水や薬液を、周囲環境の影響を排除して変質させることなく、リアルタイムに的確な量を供給するなどの技術が求められます。



給排水・衛生・消火設備

水は人が健康的な生活を営むため、また物を生産する上で欠かせません。水を用途に適した温度や成分に整えて供給し、使い終わった汚れた水を適切に処理して排出します。また、火災から人や建物を守ることも建築設備の重要な使命です。



クリーンルーム設備

清浄空間が必要な病院や医薬品・半導体工場においては、微細なホコリだけでなく、汚染ガスやウイルスなどの化学的、生物学的な汚れが無いことも重要です。最適な温熱環境を制御しつつ“キレイ”な空間を創造します。



事業領域

流通環境施設 5.6%

倉庫・商業施設 等

交通・通信環境施設 1.8%

駅舎・空港施設 等

健康・医療環境施設 7.9%

病院・介護施設 等

生産環境施設 45.9%

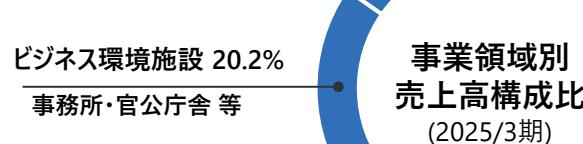
工場・研究所、
データセンター 等

ビジネス環境施設 20.2%

事務所・官公庁舎 等

生活・文化環境施設 18.6%

学校・宿泊施設 等

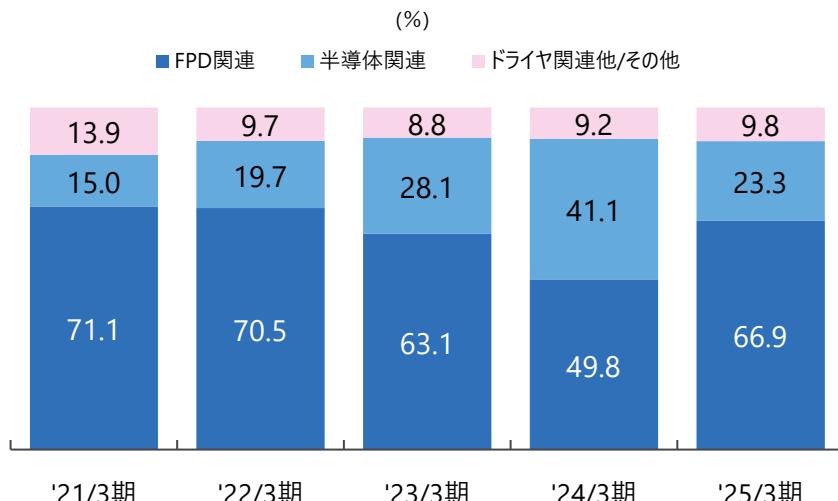


- 半導体・FPD・電子分野向けの製造装置などの先端産業向けに精密環境制御機器を開発・製造・販売。
- OEM供給を主体とすることで、開発・設計・製造に注力し、クリーン化技術や熱流体制御技術の高度な技術力を蓄積。
- 設備工事事業と連携した空調関連装置の製造を通じて、グループ総合力の向上に貢献。

事業概要

- 高性能温湿調器の製造・販売及びチャンバ(環境室)とのセット販売やクリーンルーム内に設置するFPD/半導体製造装置向けの環境制御装置製造・販売。
- 印刷機・塗工機に搭載するドライヤ装置の開発設計・製造・販売
- 主にOEMによる供給を主体とし、創業40年以上の中で、約11,400ユニットの累計製品出荷数を誇る。
- 販売エリアは中国、韓国、台湾、アメリカ、ドイツ等。

製品別売上高構成比の推移



主力製品



FPD露光装置用
エンバイロメンタルチャンバ



半導体露光装置用
エンバイロメンタルチャンバ



精密空調機ASCシリーズ

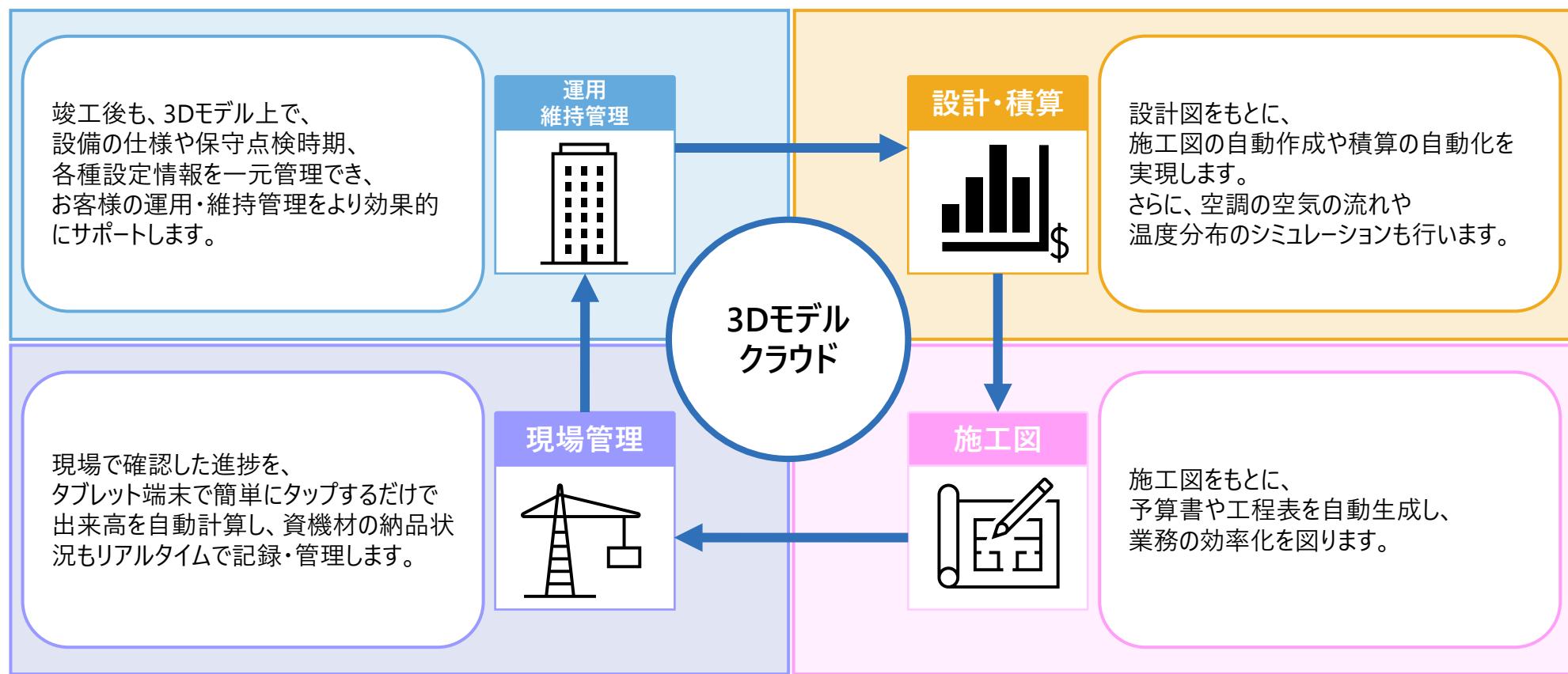


ドライヤ装置（外観）

BIMを活用した施工管理効率化「ASAHIワークフロー」

- 3D建物モデルに、コスト・資材・管理情報などの属性データを付加し、設計から維持管理までの一連の建設プロセスで活用。
- 従来、個別で作成・管理していた図面を、関係者間でリアルタイムに共有・連携。
- クラウド管理されている3Dモデルを、タブレット型端末上のソフトを通して現場管理に活用することで、資材の納品状況や工事の進捗管理も共有・連携することが可能。

ASAHIワークフローによる一連の建設プロセス



本資料は、株式会社朝日工業社の業界動向及び事業内容について、株式会社朝日工業社による現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。

既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

株式会社朝日工業社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2025年11月28日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社朝日工業社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではございません。



朝日工業社

東証プライム（証券コード：1975）

お問い合わせ先
株式会社朝日工業社 総務本部 広報・IR室
TEL : 03-6452-8181
FAX : 03-6452-8191
メールアドレス : koho-t41@asahikogyosha.co.jp